

令和3年度シラバス

文化学園長野保育専門学校

科目名				授業の種類	授業担当者
子どもの理解と援助				演習	栗原博士
学年	単位	時間数	授業回数	履修時期	選択・必修
1	1	30	15	後期	幼免：選択 保育士：必修
〔授業の目的・ねらい〕					
<ul style="list-style-type: none"> 子ども一人ひとりの心身の発達や学習過程、子どもを理解する上での基本的な考え方や具体的な方法、保育者としての援助や態度の基本について習得する。 					
〔授業全体の内容と概要〕					
<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達や学びに関する知識を、単なる知識にとどめず、保育者が実際に活用できる実践力を養う。 					
〔受講上の注意事項〕					
<ul style="list-style-type: none"> 毎回、事例検討やロールプレイを行うため、積極的に取り組むこと。 グループごとにPC(Word、Excelなど)を使い、意見をまとめたり、発表したりする。 					
〔使用テキスト〕				〔評価基準〕	
その都度、プリントを配布します。				試験(20%)、授業に臨む姿勢や発表・グループワーク(80%)	
〔授業の日程と各回のテーマ・授業内容〕					
回	項目			授業内容	
1	オリエンテーション			授業の進め方など	
2	保育における子ども理解の意義			保育者の仕事と子ども理解	
3	共感的理解			共感とは何か	
4	子どもにとっての遊び			遊びを通して、子どもの成長を考える	
5	人的環境としての保育者			子どもの成長を促すための保育者としての関わり方	
6	子ども同士の関わり			子ども同士が遊びを通して学ぶこと	
7	集団における経験と育ち			子どもが所属する“集団”について	
8	保育環境が与えるもの			環境が子どもにもたらすことについて	
9	理解するための観察・記録			観察・記録を通して、子どもを理解する	
10	職員間の連携・保護者との情報共有			子ども理解を促すための職員間の連携や保護者との情報共有、その方法	
11	多様なニーズに応える			現代社会における様々な子育て観について	
12	特別な配慮を要する子どもの理解と援助①			インクルーシブ保育と特別支援について	
13	特別な配慮を要する子どもの理解と援助②			インクルーシブ保育と特別支援について	
14	発達の連続性と就学への支援			事例を通して、子どもがどのように発達していくか。また保育者としてどのように寄り添うのかを考える	
15	まとめと試験				

実務教員としての経歴	
実務経験と授業の関連	